



3. 教育課程

全学共通科目について

「全学共通科目群」は、全学部で共通に開講する科目群であり、これらの科目を通して、共生（ともいき）と勤儉誠実の考え方や、及び幅広い教養を身につけます。

有資格者の単位認定について

下記に掲げる資格を有する学生は、証明書を持参の上、履修登録開始日から履修確認・訂正最終日（16:30）までに教務課へ申し出てください。審議を経て、下記に準じた単位が認定されます。

授業科目名	単位数 (上限)	評価	認定基準
総合英語Ⅰ／総合英語Ⅱ／ 総合英語Ⅲ／ 英会話Ⅰ／英会話Ⅱ／英会話Ⅲ	2	認定	実用英語技能検定試験 2 級 TOEFL iBT 42 点以上 72 点未満 TOEIC L&R 550 点以上 785 点未満 TOEIC S&W 240 点以上 310 点未満
	4	認定	実用英語技能検定試験準 1 級 TOEFL iBT 72 点以上 95 点未満 TOEIC L&R 785 点以上 945 点未満 TOEIC S&W 310 点以上 360 点未満
	6	認定	実用英語技能検定試験 1 級 TOEFL iBT 95 点以上 TOEIC L&R 945 点以上 TOEIC S&W 360 点以上
中国語Ⅰ／中国語Ⅱ	2	認定	中国語検定試験 3 級以上
韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ	2	認定	韓国語能力試験 2 級以上
フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ	2	認定	実用フランス語技能検定試験 3 級以上
ポルトガル語Ⅰ／ポルトガル語Ⅱ	2	認定	外国語としてのポルトガル語検定試験 (APLE) 準初級以上 ブラジル教育省による外国人のためのポルト ガル語検定試験 (CELPE-Bras) 中級以上

- 注意
1. この制度の運用は内規により行います。
 2. 既に単位認定された科目についての申請は認めません。
 3. 英語部門は、既にこの制度による単位認定を受けた資格より上級の資格を取得した場合、再度申請することができます。ただし認定単位数の合計は上級の資格による単位数を上限とします。

スポーツ健康科学部科目について

次にあげる科目は履修登録や成績評価、授業の方法等において特徴のある科目です。履修登録前に熟読し十分な理解をしておいてください。

① 同一科目名の再履修について

単位を修得できなかった科目を、同一年度内に再履修することはできません。

② 演習科目について

ア. 基礎演習は、基本的な学習スキル、読む・聞く・見る・検索するなどの情報収集能力及び必要な情報を取捨選択する能力や、その情報に基づいて結論を導く能力、その結論について書く・話すなどの表現・発信の能力を訓練するための必修科目です。各クラス20名程度で編成されます。

基礎演習Ⅰ・Ⅱのそれぞれの到達目標はどのクラスも同じです。

イ. 専門基礎演習は学生自身が主体的に一定のテーマに沿って実践的に学び、専門的知識を深め、その結果をまとめ、発表できる能力をつけるための必修科目です。

ウ. 専門演習は、各教員の専門分野を中心に指導を受け、各自の興味のある課題について調査・研究し、ゼミで発表する過程を通じて卒業研究あるいは研究成果の作成へと発展させていく、重要な必修科目です。各ゼミ15～20名程度で編成します。ゼミを自由に選択できますが、専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年次）、専門演習Ⅲ・Ⅳ（4年次）は、原則として同じゼミに所属となります。

履修コースについて

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科（S122生）

スポーツ教育コース

我が国では少子高齢化と児童生徒の運動不足が懸念されています。中学校や高等学校の保健体育の教師になるためには、陸上、球技、水泳、器械運動、武道、野外スポーツ、ダンスなど教育の現場で扱われる幅広い運動種目を教えられる実技指導能力を身につけなければなりません。それと同時に、運動の理論や保健の知識、さらには応急処置、栄養学、医学などさまざまな知識を養い、生徒が安全に且つ楽しく運動ができる力を身につける必要があります。このコースでは、保健体育の授業に対応できる実技指導力と専門的な知識を兼ね備えた保健体育教諭を育成します。

スポーツコーチコース

本コースでは、対象者の年齢・体力・技術に合わせて練習プログラムを作成、指導のできる実践的な知識とスキルを基礎から応用まで幅広く学修し、競技スポーツにおけるトップアスリートのコーチから、地域スポーツや生涯スポーツの指導者まで、幅広い領域で活躍できるスポーツ指導者の育成を目指します。従来の精神主義・根性主義のコーチングではなく、最新のスポーツ科学の知見に基づき、科学的なデータに基づいたコーチングのできる指導者を養成します。

健康トレーナーコース

交通機関や電子機器の進化によって、私たちの日常生活は非常に便利になりました。しかし同時に、自分自身の手足を使わずに済むようになったため、人間の身体に本来は備わっているはずの機能を弱めていたり、さらには健康そのものを失う状況が生まれています。運動不足による子どもの体力低下や中高齢者の生活習慣病、介護の増加は、世界一の少子高齢社会である日本ではとても深刻な問題です。そしてこの社会問題は、国民一人ひとりが意図的に身体活動を行うことで解決が可能であり、健康づくりには食生活・栄養とともに、運動・スポーツがとても重要な役割を果たします。本コースでは、運動・スポーツと健康に関する専門的な知識と技能を習得し、対象者の年齢、性別、健康、体力レベルに合わせた適切な運動プログラム作成と指導ができる健康づくり指導者を養成します。

卒業要件

東海学園大学スポーツ健康科学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科（S122生）

科目群	授業科目区分	②各科目区分において卒業に必要な修得単位数	⑥各群において卒業に必要な修得単位数	③卒業に必要な修得単位数
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	合計で108単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育			
	日本語			
	英語	必修6単位		
	情報			
	身体教育			
	外国語コミュニケーション			
	キャリア形成	必修4単位		124単位以上
専門科目群	導入科目	必修4単位	58単位以上	
	基礎科目	必修4単位を含め6単位以上		
	基幹科目	必修4単位を含め8単位以上		
	展開科目	40単位以上		
演習科目群		必修16単位		

- ① スポーツ健康科学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。各科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ② 卒業するためには、上記の表の②⑥③すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③ 1年間で履修登録できる単位数の上限は49単位です。

標準修得単位数

各学年終了時まで修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の学年に進むことはできます。ただし、第4学年終了時までには124単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各学年終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

第1学年終了時：35単位以上

第2学年終了時（2年間の合計）：70単位以上

第3学年終了時（3年間の合計）：100単位以上

第4学年終了時（4年間の合計）：最低124単位以上

*上記の数値は各学年終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

*卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

(注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3学年終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

区 授 業 科 目 分 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格							備考	
				必 修	選 択	自 由	保 中 健 体 育	障 が い 指 導 員	ア ス チ ン ト	コ ー チ ン グ (公 認 水 泳 コ ー チ)	マ ネ ジ ャ ー (ア シ ス タ ン ト)	健 康 運 動 指 導 者	健 康 運 動 指 導 士		指 導 者 * レ ク リ エ シ ョ ン ・ イ ン ス ト ラ ク タ ー
専 門 科 目 群 展 開 科 目	スポーツコーチ演習Ⅰ	P	2	1											展 開 科 目 40 単 位 以 上
	スポーツコーチ演習Ⅱ	P	2	1											
	スポーツコーチ演習Ⅲ	P	3	1											
	スポーツコーチ演習Ⅳ	P	3	1											
	健康トレーナー演習Ⅰ	P	1	1											
	健康トレーナー演習Ⅱ	P	2	1											
	健康トレーナー演習Ⅲ	P	2	1											
	健康トレーナー演習Ⅳ	P	3	1											
	健康トレーナー演習Ⅴ	P	3	1											
	健康トレーナー演習Ⅵ	P	4	1											
演 習 科 目 群	基礎演習Ⅰ	S	1	2											必 修 16 単 位
	基礎演習Ⅱ	S	1	2											
	専門基礎演習Ⅰ	S	2	2											
	専門基礎演習Ⅱ	S	2	2											
	専門演習Ⅰ	S	3	2											
	専門演習Ⅱ	S	3	2											
	専門演習Ⅲ	S	4	2											
	専門演習Ⅳ	S	4	2											

* 現場実習で「事業参加」の領域を修得すること。